

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容②】 オンラインで筆者と繋ぐ～筆者に質問しよう『オオカミを見る目』～（2／2）

2-3.整理・分析

班で選んだ質問について、「この質問の答えを聞くことで、読み取りがこのように深まるであろう」という予測を立てて考えた。さらに本文に根拠を求めたり、筆者の他の文献を参考にしたり、インターネットの情報を確認したりするなどし、さらに情報を分析することで、「問い」の質を高めた。

2-4.まとめ・表現

「問い」についてシートにまとめ、実際に筆者にオンラインで質問する活動を行った。

自分たちの「問い」について筆者に答えを聞いたり、コメントを頂いたりした。また、他校の生徒の読み取りとその答えを聞き、メモにまとめた。

自分たちの立てた「問い」とその答え、また他の班や他校の生徒が立てた「問い」とその答えを土台に、内容の理解や筆者の表現の工夫についてまとめた。

2-5.振り返り・改善

「問い」を立てて文章を読むこと、筆者に質問し回答を頂くこと、他校と意見交換することについて振り返りを行った。振り返りを共有することで、学び方についての理解も広がった。



3. 成果と課題

3-1.成果

説明的文章の意味内容の理解に留まることなく、「問い」を立てるために読み直しをすることで、深い内容理解に繋がった。これは、他の説明的文章や文学的文章、他教科でも生きる視点であると考えられる。

以下、生徒記述

- ・問いを立てることでより内容が入ってくるし、より面白い読み方ができて役に立つし、じっくり読めると思いました。今回のオオカミを見る目を通じて、人間の課題点や他の国と比べてたり現代と昔を比べてたりして、考え方がどう変化したのかを考えることができた。一文一文に何か隠されていないかを見つけるのも楽しかった。
- ・勝手な判断をしない、正しく知ることをこれからの生活に生かしていきたいと思いました。ただし、正しく知ることは簡単なことではないので、詳しく調べて、確実なことから学んでいきたいです。そして、人は流されやすいということを意識して生活したいです。自分も、もしその情報だったら広めず、本当にそれであるか調べるようにしたいです。

3-2.課題

今回の実践では、質問を班で精査したため、本当の意味での一人一人の「問い」について深めることができなかった。全ての生徒の課題に自分たちなりの答えが見つかるような展開や活動の工夫を今後も研究したい。

4. 今後に向けて

今回の単元を受けて、次回は文学的文章について読み取ったことをグループごとに他校の生徒と話し合う活動を行う。さらなる主体的な読みの実現に向け、実践を重ねていきたい。